

① 学習指導案

プログラム	No. 10 「校歌の風景を見つめてみよう」
単元名 (全70時間)	アートで感じる黄金波
学習のねらい	普段見慣れている地域の景色のよさを、アートの力で再発見しながら、ふるさとへの愛着をもつ。
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 校歌に歌われている「黄金波」の意味を考える 2 上岡学作品集を鑑賞し、人形を自然の中に置くアートを知る。 3 自分の分身（アバター）となる作品をつくり、学校田に持ち込む。 4 学校田を背景にアバターの写真を撮りためる。 5 大地の芸術祭の里を訪れ、自然の中にある大きなオブジェを鑑賞する。 6 学校田に共同作品として作品を展示し、「学校田の芸術祭」を行う。 7 学校田に繰り返し訪れ取りためた写真をまとめて、「写真集」を制作しながら、地域の自然の変化やよさを感じ取る。 8 改めて校歌に歌われている「黄金波」の意味を考えながら、ふるさとの風景に対する思いや願いをもつ。
参考資料	○上岡学作品集
準備品	○タブレット端末
実施場所等	○学校田

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	校歌に歌われている「黄金波」の意味を考える	校歌に描かれている意味や、地域の地理的な環境を考えさせる。	【知識・技能】 ・素材のよさを生かしながら、自分の分身となるアバターの制作している。 ・背景の景色に注目しながら、写真を撮っている。
2	上岡学作品集を鑑賞する	写真を撮るアングルや背景の写し方に注目できるよう、教師の参考作品も提示する。	
10	自分の分身（アバター）となる作品をつくり、学校田に持ち込む	石や木など、身近な素材でアバターが作れるよう、材料を準備する。	【思考・判断・表現】 ・アートがもたらす効果を考えながら、作品を制作している。
10	学校田を背景にアバターの写真を取りためる。	同じ場所でも、季節によって作品の雰囲気が変わることを伝える	
5	大地の芸術祭の里を訪れ、自然の中にある大きなオブジェを鑑賞する。	「地域の人にも気付いていない自然のよさを再発見する」という大地の芸術祭の目的を、現地の人から語ってもらう。	・田んぼの変化を捉えながら、校歌に描かれている「黄金波」の意味を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・意欲的に写真を撮りためようとしている。 ・大切にしたいふるさとの景色を、自分の体験を通して実感している。
18	学校田に共同作品として作品を展示し、「学校田の芸術祭」を行う	スタイロフォームを加工したオブジェをつくり、学校田に飾る活動を提案する。	
6	写真集を制作する	これまで取りためた写真を再構成できるように、動画編集ソフトの活用方法を教える。	
1	「黄金波」の意味を再考し、ふるさとの風景に対する思いや願いをもつ。	未来の富曾亀地域の風景を想像しながら、大切にしたいふるさとの景観について語り合う場を設定する。	

② 事業実施報告書詳細

学校名 長岡市立富曾亀小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
3	教室	○校歌に歌われている「黄金波」の意味を考える。 ○上岡学作品集を鑑賞し人形を自然の中に置くアートを知る		プロの写真集を鑑賞することで、自分たちもやってみたいという意欲を高めた。
4	学校田	○自分の分身（アバター）となる作品をつくり、学校田に持ち込む。		石のアバターと木のアバターの制作を楽しんだ。早く撮影したいと願い、中庭で撮影の練習をした。
10	学校田 教室	○学校田を背景にアバターの写真を撮りためる。		代かき前に田んぼに訪れ、アバターを置いて写真を撮影した。田んぼに映る空の美しさに気付いた。 ※田植え後にも撮影し、比較することで景色の変化を捉えた。
5	十日町市	○大地の芸術祭の里を訪れ、自然の中にある大きなオブジェを鑑賞する。		タブレットとアバターを持参して鑑賞したことで、鑑賞する意欲が高まった。

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
5	学校田	【学校田の芸術祭第1弾】 ○学校田に旗のオブジェを飾り、写真を撮影する。		大地の芸術祭の里で学んだ、「地元の人が気付いていない自然のよさをアートで感じてほしい」という思いを作品に込めた。
8	教室	○学校田の芸術祭第2弾に向けてオブジェをつくる。		第1弾は広報不足だったため、チラシやポスターを作って宣伝したいと願った。
5	学校田	【学校田の芸術祭第2弾】 ○学校田に花のオブジェを飾り、写真を撮影する。		多くのアンケートから高評価をいただき、満足感を得ることができた。
<p>【学校田の芸術祭第2弾 地域の方のアンケートから】</p> <p>○我が家は農家なので、今の時期になると「大変な稲刈りが始まる…」という感情になって「景色」として考えることがありませんでした。今回の芸術祭を通して、毎年見ている景色を初めてきれいだと感じました。ありがとうございました。</p> <p>○普段はいつもの景色すぎて気にして無かったけれど、華やかになってよかった。じっくり眺めて秋を感じられた。</p> <p>○何気なく見ていた稲穂の風景が、色鮮やかに彩られて、とてもきれいでした。稲穂の風景のすてきさを再発見しました！</p>				
6	教室	○これまで撮り溜めた写真を活用して動画編集を行い「私の黄金波アルバム」を制作する		多くの子供が、景色の変化を捉えながら、黄金波の美しさを表現する動画を制作した。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

大人が大切にしてほしい景色を子供に押し付けるのではなく、子供が自ら自分たちのふるさとの景色のよさに気付いていくような活動展開が望ましい。そこで、アートの魅力に触れながら、いつも見慣れている景色のよさに気付いていく活動展開を工夫した。子供は、自分の作品を撮影しながら、背景にある田んぼや校舎なども作品の一部として認識していった。このような活動を年間を通じて息長く取り組むことで、四季の移ろいと自然の変化を楽しみながら捉え、毎日見慣れている景色のよさを捉え直していった。

(2) 実施にあたり苦労した点

子供は、初め遠景には注目しない。アバターをアップで撮影する子供も多く、活動の意図とズレる作品も多く見られた。しかし、繰り返し学校田に訪れたり、自分の手で田んぼに苗を植えたりする体験を通して、次第に、自分の作品を中心とした近景から田んぼなどの中景へと意識が向いてきた。そして、学校田の芸術祭を実施し、大きなオブジェを展示することで、遠景も含めた「黄金波」のよさを実感することができた。

(3) 児童の反応

景色の変化を捉えることや、自分の作品を撮影することを目的とすることで、楽しみながら学校田に向かう子供の姿が見られた。また、近所の田んぼの変化と自分たちの田んぼの稲の成長を比べたり、自主学習で美しい景色を撮影したりするなど、日常的に景色を感じ取ろうとする感性が育ってきた。学校田の芸術祭を通して、普段見慣れている景色を、自分たちの地域のよさとして捉え直した。その実感を基に、自分たちの学びを動画編集し、上映会を実施することで、多くの子供が自分たちの地域の自然を誇りに思い、大切にしたいと願うようになった。稲刈り体験を終えてAさんは次のように振り返りの作文を書いた。

【稲刈り体験を終えて】

昔はコンバインが無かったから、全部手でやっていたと思うと、コンバインを操縦する何倍も大変だったんだなと思いました。コンバインを開発してくれた人に感謝したいです。

稲刈り後の風景は、今まであった黄金波の風景がなくなってしまい、少し寂しい感じでした。しかし、「冬が終わったら来年も見られるぞ～！新潟県に生まれて、田んぼがものすごく近くにある学校に通えて、この田んぼの学習ができてよかった！」と思いました。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

教師も、田んぼの稲の成長に敏感になり、作業をしている機械や人の姿に目を留めるようになった。また、大地の芸術祭の里を訪れ、アートが自然の魅力に気付かせてくれるということ、教師自身が実感をもって捉えることができた。子供と共に、学校田の芸術祭を楽しみながら、景色と人の営みについての見方を広げた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

社会科「これからの食糧生産」では、農業人口の減少等、農業の課題について学んでいる。利便性を追求する人間の暮らしと都市開発の現状から、田畑が商業施設等に開発されることも十分にありえる。そこで、「学校田も含めた地域の田んぼが商業施設になることに賛成か反対か」を考える。地域の田園風景「黄金波」を大切にしたい思いと、利便性を求める人間の欲求との間で揺れ動きながら、景観を大切に街をつくることへの見方を広げていきたい。